事例No.	2802
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	合同会社とびしま

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

しまびとが社員の会社

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



しまびとが社員の会社

合同会社とびしま

DATA

事　　例　　名：合同会社とびしま
所　　在　　地：山形県酒田市飛島字勝浦乙132-19
連　　絡　　先：TEL 0234-96-3800
　　FAX 0234-95-2150
　　E-mail mail@tobi-shima.com
ホームページ：https://www.tobi-shima.com

取り組みの概要

飛島は、山形県の最北端にある周囲10kmの小さい島で、人口約170人、高齢化率約80%、平均年齢約70歳と人口減少・高齢化が急激に進んでいる。島の雇用の受け皿とコミュニティを維持するために社員全員が島に生きる一人として、それぞれの個性を押し出しながら地域の力を活かせるよう取り組んでいる。

評価された点

●高齢者の仕事を引き継ぐことだけでは、持続性や経営難など課題が多く、他地域ではとん挫するケースもある中、新しい仕事と雇用を創出し、関係者を幅広くつなげている点を評価。

●人口減少が著しい地域において、若い世代が地元の産業とコミュニティの存続に向けて取り組みを重ねている点を評価。

●移住者を集めて旅館を承継するなど、旅館業、0次～3次産業へと展開する中で、島内経済循環を形成しようとする意欲があり、他地域の参考になる取り組みである。また、SNSを駆使しながら島外との連携も図っていることも参考になる。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　**2011年～**
・にぎやかだった頃の飛島を取り戻して、この先もコミュニティを存続させたい。

・島民の高齢化。
・小中学校の休校。

2012年～

とびしま未来協議会により「しまcafé」オープン

・島民が気軽に集うカフェ、商店機能が衰退し観光客が昼食をとることさえもままならない状況だった飛島の新しいスタートの出来事。



・新しく人を呼び込むためには雇用が必要。

2013年～

・遊歩道の除草作業。
・県道の除雪作業。
・加工所で商品開発。
・畑で特産のジャガイモ栽培。

合同会社とびしま設立

・Uターン2名、Iターン2名の4名でスタート。島の高齢者が担っていた仕事を引き継ぎ、島の「何でも屋」として活動。



2013年～

・海岸漂着ゴミを学ぶツアーの企画・運営。（県事業）

～飲食業の展開～「しまcafé」を「しまかへ」に

・とびしま未来協議会の「しまcafé」を会社事業として引継ぎ、親しみのある訛りから「しまかへ」に変更。現在も引き続き島内で営業中。今では島内で唯一の食堂。

2018年～

～宿泊事業の展開～　沢口旅館　運営開始

・後継者不在と高齢化に悩んでいた島内の旅館「沢口旅館」を事業承継。UIターンした従業員を雇用し、島内の雇用創出に貢献している。

シェアハウスMYA（ミャア）オープン

・使われなくなった建設業者の施設をリノベーションし、シェアハウスをオープン。気軽に利用できる宿泊施設がない飛島において新たな選択肢を提供。





・島内浄水場の管理。

2020年～

2022年～

～関係人口の創出～

・島の発展を続けるためには島外からのパワーも必要不可欠。新しい組織を造り、その組織と連携をしていくことで相乗効果を生み出していくことができる。
・グッドライフアイランド合同会社。
・テックアイランド合同会社。

今後の展望

持続可能な地域にすること
・さまざまな関係人口の創出によって新たな価値のコミュニティを創造していく。それが飛島が持続可能な地域として残っていくこと。

受賞者のコメント

この度は栄誉ある賞を頂き誠にありがとうございます。私たちの住んでいる地域を少しでも長く存続させていきたい一心で10年余り活動してきました。我々が出来ることは微力で道半ばですが、島民の方々、支えて頂いている方々に感謝しつつ、いつか実を結ぶことを信じて活動を続けてまいります。過疎化・高齢化の最先端を行く地域として地域モデルになれるような取り組みを加速させ、“「飛島」ここにあり”と言われるような地域にしていきたいと思います。